

部局名 地域資源創成学部

担当: 准教授 松岡崇暢



テーマ 住み続けられる集落づくり : 綾の肖像プロジェクトおよび集落ビジョンの作成

特色ある取組

綾町内の集落では、豊かな自然環境と生態系を育み持続可能な社会を築いてきました。その成果としてユネスコエコパークに登録され、評価を受けています。綾町民の昔ながらの生活実態と思い出を後世に残すため、綾の肖像プロジェクトに取り組み、古い写真をデジタルデータ化し聞き取り調査内容を記録として情報発信しています。

参考URL [ユネスコ エコパーク推進室 - 綾町ホームページ \(town.aya.miyazaki.jp\)](https://town.aya.miyazaki.jp)



完成した集落ビジョン

令和3年策定 久米野々地区集落ビジョン

1 久米野々地区の概観
 宮崎県綾町の久米野々地区は、令和3年4月現在で24世帯23人が居住しています（世帯人口/自治体住民加入は計割）。平均年齢67.6歳と高齢化が顕著な小規模集落です。建群中心部からの距離は約5kmで建群中心部間の移動は車で約15分を要します。山間部ではありますが、町中心部に近く国産利とも隣接している集落です。

2 久米野々地区の特徴
 もともとは山深い土地でしたが、国の緊急開墾事業を受けて昭和21（1946）年に入植が始まりました。開墾者は山林を伐採し、農で盛り起こして農地を作る農務労働を担い、戦後の荒しい中で逞しい精神力で山間部づくりに取り組んできたことから、住民同士の絆がとて強いのが特徴です。「強い心」を大事に、道徳観や道徳品などとの交流や地域づくりに取り組んで、今でも公民館文化祭や花の寄せ植え活動などの取り組みを継続しています。
 かつては農業や養蚕が盛んでしたが、「自然生態系農業群の地」という自負のもと町が推進する自然生態系農業に取り組み、野菜生産が主産業となっています。少子高齢化による後継者・労働力不足が顕著であり、産業や文化・地域活動の担い手・リーダー育成の緊急性が非常に高いほか、すでに地域交通や医療・福祉などの課題が増えています。日常生活において行政や関係機関などの支援が求められます。

3 聞き取り調査
 令和3年7月に2回の聞き取り調査を実施しました。
 7月1日には、住民の皆さんが写真で保存されている「写真」を手際よく、久米野々地区の文化や風俗、歴史、地域活動などについて聞き取りました。約100枚の写真の中から20点を選定し、デジタルデータ化した上で、投稿ホームページに掲載してはるのびでの保存を行っています。7月28日には、定住意向や生活・地域活動などにおける聞き取り・課題などについての聞き取りを行いました。

4 聞き取り調査から浮かび上がった住民の思い・主な課題
 高齢者は単独で暮らす、聞き取り調査に参加した高齢者も自ら行方不明の場所に住み続けたいという思いがあります。また、地区の存続・維持のために外部人材や移住などを積極的に受け入れたいという思いが多く出されたことも特徴的です。高齢者の多くは健康づくりや交流に積極的に参加しており、絆づくりを大切にしています。
 一方で、集落内の40〜60世代のほとんどが自治体住民加入であり、地域活動への参加もありません。この数年で自治体住民としての維持を要する年齢は高くなるのではという強い危機感や不安感が感じられます。地域住民同士で集落の維持について話し合いを重ねる機会をもつことが求められます。
 交通については運搬できる高齢者が少なく、行政によるタクシー無償貸出や外出支援「バス利用の促進」が求められており、「地域の足」の確保や買い物支援、さらには見守り活動や交流機会の創出を要望する声が増えました。高齢者だけの活動の継続や互助がすでに困難になり始めており、さまざまな方策について住民同士で、また行政と話し合いを重ねていくことが重要になっています。




集落ビジョンの骨子

- 継続的な集落での生活に必要なこと「移動手段確保・見守りの安心感」
- 継続したい、復活したい集落生活の彩り「交流やつながり・祭りの復活」
- 関係人口の活用とその可能性「大学との関わり・移住希望者の受け入れ」
- 集落の未来「若い世代へバトンタッチ・子ども世代との話し合いの場」



特色ある取組

高齢化と人口減少が進む集落で、10年後も変わらない生活を送るために不可欠な支援策を検討し集落ビジョンとして取り纏めました。集落住民の方々は、結いの心を忘れずに相互扶助の集落生活をこれからも送っていきます。